様式第５号

令和６年度　学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	75	学 校 名	浜松江之島高校	記 載 者	磯 部　正 之

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評　価	意見
重点１	**事件や問題行動、トラブルを未然に防ぐ安心な学校づくり**	○挨拶や礼法が実践できている生徒 ◎挨拶や礼法が重要だと生徒に理解させる指導をした教員 ○相談できる先生がいる生徒 ◎生徒が相談しやすい環境作りをした教員 ○学校生活に満足している生徒 ○相手を思いやる言動ができている生徒 ◎ＳＮＳに不適切な書き込みをしない生徒 ◎ＳＮＳの適切な使用を指導した教員	Ａ	Ａ Ａ Ａ － －	・さわやかな挨拶といじめのない学校は親和性があると言われます。挨拶や礼法ができていることは素晴らしいです。 ・ＳＮＳによる人権侵害の問題は、昨今の日本の社会でもよく見かけます。命にかかわる問題まで発展しているものまで散見します。高校生年代になるとＳＮＳは欠かせないコミュニケーションツールになっています。継続した指導をお願いいたします。 ・生徒に対するきめ細かい目配りが実践されており、教職員が常に高いモチベーションで教育・生活指導に取り組まれていると拝察する。特に若年層のSNS の利用については重要な社会課題を内包している。その意味で貴校のSNS使用に関する指導は大きな成果を挙げており、意義深く受け止める所である。 ・学校へ行くと、生徒さんの挨拶がとても気持ちよかった。
重点２	**知性や表現力の向上につながる授業実践**	○ＩＣＴ等を活用して工夫した授業が行われていると感じた生徒 ○ＩＣＴ等を活用した授業改善を実施した教員 ○授業力向上に関する研修に参加した教員 ◎１日に平均１時間以上演奏した生徒 ◎４月に比べ美術の能力が向上した生徒	Ｂ	Ｂ Ａ Ａ － －	・ＩＣＴを利用しなくても知性と表現力を向上させる授業は可能だと思います。現に今までの教育でもしっかりと知性と表現力を追求してきました。ただ、ＩＣＴを使うと、授業が効率的になるでしょう。鉛筆やノートのように一つの文房具としてＩＣＴを活用できるとよいと思います。 ・音楽コース、美術コースの生徒さんの技量は、いつも感心させられます。 ・研修参加については、教員サイドの日常の業務負担との兼ね合いが関係していると考える。短絡的な評価は望ましくない。

様式第５号

					・ICT の活用は昨今の授業運用の時流であり基本的には積極的に取り入れていくことが望まれるが、その活用自体が目的となってしまっては本末転倒である。あくまで生徒の修学支援効果を冷静に見極めていくことが必要である。 ・これからの時代、とても必要なことを学べるので、大事だと思う。
重点３	**知性の定着を意識した観点別評価の改善**	○観点別評価が実施されたと感じる生徒 ◎３観点を育てる教科指導を実践した教員 ○観点別評価の改善を意識している教員 △観点別評価に関する研修に参加した教員	B	B B A － －	・観点別評価は、中学校ではかなり前から取り入れられ、40 代より若い教員は当たり前のようになっている状況です。観点別評価のメリットは、生徒を多様な視点で認めてあげられるところにあるかと思います。この多様な視点が、生徒たちの将来の自分らしさにつながるものと感じています。 ・2022 年度に導入された観点別評価をいち早く取り入れ、組織全体として最適化していこうとする姿勢に共感を覚える。研修参加については、前述同様に教員サイドの業務負担が関係していると思われ一概にネガティブな解釈をするべきではないと考える。
重点４	**業務改善にもつながる教育課程の変更**	△生徒の実態に合わせた案を意識した教員 △受け持ち科目の縮減を意識した教員 △部活動の在り方を考えた教員	C	C B B － －	・この部分は教員の働き方改革につながるところでしょうか。分かっているがなかなか推進できない、難しいところだと思います。ただ、ゆとりは必要だと思います。ゆとりのないところに新たな発想は生まれないと思うからです。 ・効率的な学校経営を意識した場合、授業時数の最小化をはかることが有効であることは理解できる。しかしながらこの方向性は、現時点において教育現場の実情から乖離している印象は否めない。44.4%という数値には、十分な教育効果を指向する教員サイドの熱意の表れとも捉えられ、この点も短絡的にネガティブに解釈すべきではないと考える。